

## 豆科牧草ヘアリーベッチをマルチとして利用した 夏秋雨よけトマト栽培

農業研究センター 農産園芸研究所 土壌肥料部

担当者：郡司掛則昭

### 研究のねらい

夏秋期のトマト栽培において用いられるマルチ資材としてはビニール等化学工業製品が一般的であるが、栽培終了後の廃棄処理の問題が残る。ヘアリーベッチは寒地型牧草として利用されてきた作物で、ほふく性で雑草抑止効果を有し、高温期には枯れ地表面を被覆する。そこで、肥効調節型肥料の全量基肥施用とヘアリーベッチをマルチとして用いて、夏秋トマトの省資源栽培法を確立する。

### 研究の成果

- 1 生育期間中の平均地温は、白黒Wマルチに比較してヘアリーベッチの方が1.4 低く、最大3.3 の差があるため(図1)、トマトの生育は白黒Wマルチよりもヘアリーベッチで平均した生育となる。
- 2 果実の性質は白黒Wマルチの方が果実数が多く収量がやや高いが、ヘアリーベッチマルチ+溶出日数100日のリニア型被覆燐硝安加里施肥では秀優品率が17%優れ、規格品質も大玉の割合が高くなる(表1)。
- 3 被覆燐硝安加里の基肥全量施肥とヘアリーベッチをマルチとして利用する組み合わせは、慣行栽培とほぼ同じ収量・品質が期待できる省資源栽培法である。

### 普及上の留意点

- 1 黒ボク土畑の夏秋トマト栽培が技術の適用対象である。
- 2 ヘアリーベッチの播種時期はトマト定植1ヶ月前ではトマトの活着に悪影響があるので、トマト定植時とし、うね面に播種する。
- 3 肥培管理は、施肥では施肥基準相当量を被覆燐硝安加里(100日タイプ)を用いて全量基肥施用し、灌水は慣行に準じて行う。

平均地温 ( )

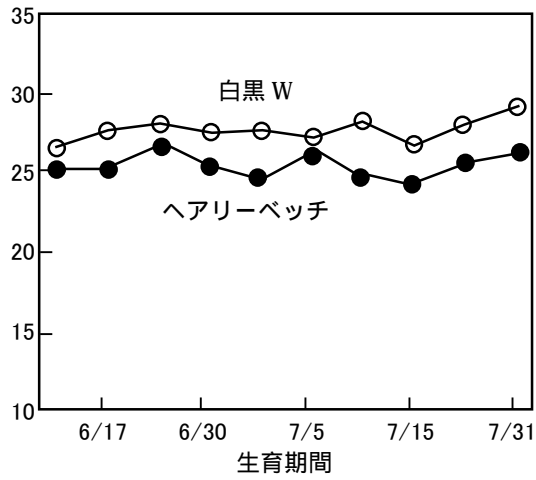


図1 生育期間中の地温の推移



写真1 ヘアリーベッチを利用した栽培の状況

表1 収穫果実の性質

マルチ 資材の 種類	施肥資材		一果 重 g	収穫 量 kg/a	果実 数 個/10株	同 比率 %	秀優品 割合 %	規格別割合				
	溶出 日数	溶出タイプ						>3L	2L	L %	M	<S
白黒W	100	リニア	198	578	146	100	62	9	31	19	23	18
	100	シグモイド	200	576	144	100	69	13	30	21	15	21
	140	シグモイド	216	613	142	106	62	18	31	21	16	14
ヘアリーベッチ	100	リニア	224	564	126	98	79	16	34	27	20	3
	100	シグモイド	189	525	139	91	75	8	30	20	18	24
	140	シグモイド	214	539	126	93	70	19	27	17	25	12

耕種概要： トマト定植：5月6日、収穫：6月17日～7月31日（6段果房まで）

ヘアリーベッチ播種：5月6日、播種量：1.2kg/a

施肥窒素量：3.0kgN/a